第37回L-band RF電子銃開発G会合

日程：2012年1月24日

時間：13時30分より14時30分頃まで

出席：高富、渡辺、早野、細田、川瀬、磯山、加藤、浦川、栗木、飯島、増元、三好、山本(記）

○阪大RF電子銃空洞製作の現状について、磯山先生より報告があった。

水冷管ロウ付け部のはめ合い部の隙間が0.3mm(設計0.1mm）と大きく、このままではロウ付け不可。原因としては、周波数調整中の変形、水冷管レーザー溶接時に変形等、が考えられる。原寸合せで再加工して対応する。空洞のKEKへの送付は2/1以降となる。

Q:　本体への水冷管のとりつけ方法は？

A:　本体にロウ付けするが、とりまわしは現場合せを考えている。

Q:　阪大空洞のテストは？

A:　STFのトンネルでおこなう。必要な物品はつなぎ変え用導波管、Ion　Pump、架台、カプラー、FC、などである。

Q:　支援事業に応募予定か？

A:　ビームテストを課題として応募。

○早野先生よりSTFの現状等について報告があった。

ビーム出しにむけて準備をしている。実用Moカソードプラグを製作したが、旋盤加工跡が目立ったので、バフ研磨をおこない鏡面状にしている。RFG空洞エージングは50us, 4.0MW, 100us, 3.0MW程度まで順調に進捗しており、真空窓付近で放電してトリップが数回生じている。蒸着チャンバーに軸出しのためベローを追加し、ロッドをその分伸長する改造を行い、来週から真空引きの予定。坂上氏がRFGun用レーザーの調整をすすめており、27日にレーザー安全検査予定。

　Q:　STFに空洞テストベンチをつくることは可能か？

　A:　現状のビームライン横に設置することは可能。

　C:　最速で、1/30の週にカソード蒸着装置立ち上げ、2/6の週にカソード付きエージング、2/13の週にビーム出しだろう。

次回　2/21 13時30分

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責　栗木